

目的 学童の衣生活における熱的な環境を把握する目的で、季節毎の通学時の着衣内容を調査するとともに、代表的な服装の熱遮断効果をサーマルマネキンにより検討する。

方法 1) 大阪郊外の小学校4年生1クラスを対象とし、昭和60年5月から1年間、通学時の着衣内容をアンケートにより調査した。2) 立位子供サーマルマネキンを用いて、調査から男女学童服の最も頻度の多かった単一衣服と重ね着衣服について熱遮断効果を測定し、その局所別保温力の特徴とクロー値を検討した。

結論 1) 着衣内容の調査の結果より、夏季男児は半袖ポロシャツ・半スボンスタイル、女児は半袖ブラウス・スカートスタイルが多く、春秋には半袖を長袖に変え、更に気温が低下するとベスト、セーター及びジャケットを重ねて保温力を調節していることが分かった。

2) 上の調査の結果より、季節別の単一衣服として下着(7種)、外衣(15種)のクロー値を求めた。半スボンにはスカートよりクロー値が小さい。

3) 代表的な重ね着の局所別熱遮断効果を比較すると、男女児服共、大腿・下腿部の熱遮断効果は小さく(特に男児)、部位に偏りがみられた。またスカートスタイルの方が半ズボンスタイルよりも腹・腰部の熱遮断効果が大きかった。なお、この特徴はベストまたはセーターを重ねても、変わらなかった。これらの代表的な重ね着のクロー値は夏の女児服で0.26~0.33クロー、男児服で0.17~0.26クローとなり、春秋ではそれぞれ0.46~0.62クローと0.31~0.45クロー、冬では0.71~1.00クローと0.52~0.88クローとなった。